第１回北広島市学校施設長寿命化計画策定検討会議録

日　　時	令和元年７月 25 日（木）17 時 00 分　～　18 時 30 分
会　　場	市役所１階多目的室２
出 席 委 員	荒川委員（※代理出席）、安藤委員、折内委員、設楽委員、高橋委員、塚﨑委員、津谷委員、野澤委員、吉田委員、吉本委員
欠 席 委 員	安藝委員
市 出 席 者	（市教育委員会） 吉田教育長、下野教育総務課長、本宮主査、今井主任 （市教育委員会業務受託者） 日本データーサービス株式会社
傍　聴　者	なし

１　開　　会

〇委員の過半数が出席していることから、検討会議が成立していることを確認し、開会。

〇座長選出までの間、事務局で進行。

２　選任書交付

〇教育長から、各委員に選任書を手交。

３　教育長挨拶

・学校施設に求められる要素として、児童及び生徒が生活の大半を学校で過ごすことから、第一に安心・安全な施設を維持・保証していくことが大事である。また、ICT や特別支援教育などを含め今日的な教育課題に対応して適切に学ぶことができる環境を保証することも大事である。

・本市では、学校施設の質の向上やそのための整備について、中長期的な視点に立ちながら計画的に整備等を進めてきた。

・本市の学校施設は、築40年以上が52.5%、築30年以上が73.8%となっている。今後の老朽化対策について、財政状況が厳しい中ではあるが、財源の確保も含めて検討していかなければならない緊喫の課題となっている。

・国では、状態の良好な学校施設については、80年程度まで長寿命化を図り、継続して活用することが望ましいという方向性を示し、自治体に対しては施設管理計画の策定を要請しているところである。

・この会議は、国の動向を受け本市の計画を策定するため、日頃から学校に関係されている有識者の皆さまにお集まりいただいたものである。年間４回程度の会議を予定している。学校施設については、教育委員会が抱える緊喫の課題であることか

ら、委員の皆さまには積極的なご意見をいただきたい。

４　委員紹介

○事務局から、委員を紹介。続いて、事務局を紹介。

５　議　　題

（１）座長及び副座長の選出

○出席委員の満場一致により、座長として安藤委員を、副座長として設楽委員を選出。

（２）会議の運営について

○事務局から、検討会議の会議録等の公表に関する取扱要領に基づき、会議を公開すること及び会議録の公表について説明。

（３）資料説明

○事務局から、資料に基づき、①検討会議の趣旨、②学校施設長寿命化計画について、③北広島市の学校施設における検討課題、④今後のスケジュールについて説明。

○受託者から、学校ヒアリングの結果について説明。

（４）意見交換

（Ｇ委員）

・西部地域は学校と地域の連携が充実しており、地域と連携した行事を行う際の様々なものを保管できる場所が学校に確保され、整理整頓されていると良い。このようなスペースがあると、防災面でも役立つのではないか。

（Ｄ委員）

・結露対策について、今日も本校の１階廊下が結露で水浸しになり、教員で対応したところである。

・エアコンについて、今後設置されるのであれば快適になると思う。

・ICTについて、NHKなどインターネット上で公開されている動画を教材として使う際に、途中で止まってしまうことがあり非常に困っている。Wi-Fiの環境が強化され通信環境が快適になると、小・中学校の様々な教科で使える教員が増えると感じている。

・防犯や防災について、先月本校の玄関ガラスを割られる事件が発生した。昨今、想定外の事件が発生してしまう状況なので、防犯カメラの設置は必要だと感じている。

（Ｉ委員）

・トイレについて、和式が多い学校では困っている状況にあると聞いていることから、洋式化が早く進むと良い。

・保健室について、手洗い場しかなく、傷口を洗う際に使い勝手が良くないところが多いと聞いている。傷口の洗浄に使いやすい水回り設備整備があると良い。
・相談室について、普通教室から見えない位置に設けるなどプライバシーに配慮して整備されると良い。

（Ｃ委員）
・ヒアリング結果概要は、先生方が書いたものか。また、ヒアリング時の学校側の対応者は。

（受託者）
・ヒアリングは、主に教頭先生や業務主事に対応いただき、学校によっては養護教諭や相談員も対応した。結果概要は、当社が作成した記録に基づき、事務局が作成したものである。

（Ｃ委員）
・現地調査について、受注者が今後行うことになっているが、調査項目や劣化状況の評価方法など調査の内容は。また、調査結果は、次回会議の際に提示されるのか。

（受託者）
・劣化度調査については、国の学校施設長寿命化計画策定の手引きに基づき実施することとし、主な項目としては、外部は外壁や屋上の劣化状況、内部は普通教室や特別教室のほか廊下の床・壁・天井の状況、設備はボイラーや高架水槽などの状況であり、このほか校内を満遍なく調査することとしている。
・調査項目については、事務局と協議の上、後日配布させていただきたいと考えている。
・調査結果については、次回の会議で、学校施設の劣化状況が分かる資料を提示したいと考えている。

（Ｃ委員）
・先ほど事務局の説明で改修のサイクルが学校により違うとあったが、今までは学校ごとの改修がされていて、改修内容が異なると捉えて良いのか。

（事務局）
・学校は増築などがあり、棟により築年数が異なっている。こうした中、棟別に概ね20年に一度のペースで大規模改造を行っており、改修内容は、事業の都度、学校の要望を踏まえ実施している。

（Ｃ委員）
・今後の検討課題にあるように、各学校で改修状況が異なっており、設備設置状況の標準化を進めていくべきという捉え方で良いか。

（事務局）
・ご指摘のとおり。
・教育委員会では、大規模改造の実施に当たり、トイレの洋式化とLED化を標準的な整備として進め、それ以外については学校の要望を受け実施している。
・トイレの洋式化については、潔癖症の子どもへの対応や、地域開放などで利用する方に配慮して、和式トイレは各階１～２基程度を残している。
・相談室は、明確な指針をもって整備していないため、結果的に普通教室の前を通るなど行きにくい場所に設けられている場合もある。改修した際の各室配置など、整備の基本となる方向性についてご議論いただきたいということが趣旨である。

（Ｋ委員）
・ヒアリング調査で把握した意見については、本検討会議や事務局で対応方策を検討して、前進していけたら良いと思う。
・防災機能の視点として、市内の小中学校におけるソーラーパネルの設置状況を伺いたい。

（事務局）
・ソーラーパネルは、西部小学校、西部中学校の屋上に設置している。
・災害時の使用については、学校全体となると消費電力が大きいため、相当量を設置しないと機能を果たせないと聞いている。
・ソーラーパネルのパネル自体は半永久的に使えるものが出てきているが、変電設備は15～20年で劣化してしまうことから、高額な初期投資に加え維持・更新費用を含めたトータル費用を考えると標準的な改修内容として扱うことが難しく、今後の大規模改造で積極的に設置を進める考えではない。

（Ｋ委員）
・学校としての機能をフル稼働させるための電力を供給すると考えたら非常に難しいと思うが、避難所を設置した場合の最低限の電力と考えると一定程度の確保はできるのか。

（事務局）
・可能であると思う。なお、ソーラーパネル以外に、全校に発電機を接続できる設備を設置しており、発電機を別な場所から借りてきて電力を供給することは可能である。

（Ｅ委員）
・今回配布された整備内容に係る事例資料のなかで、本州の自治体だけを示しているのはなぜか。また、道内や石狩管内の市町村の計画策定状況を教えてほしい。
・また、本計画は令和２年度からスタートすることになると思うが、早ければ令和３年度に行う整備から具体的に反映されていくものと考えて良いのか。

（事務局）
・国では、学校施設長寿命化計画を令和２年度までに策定することと示しているが、全国でみると北海道は下から２番目の計画策定率（平成30年4月1日時点）である。道内や石狩管内の市では、概ね今年度から策定に着手していると聞いている。
・文部科学省が実施した解説書を作成するためにモデル事業を活用した自治体が本州に多く、その近隣自治体でも計画策定の動きが広がっている状況にあることから、お配りした事例に本州の自治体の計画が多くなっている。
・計画実行のタイミングについて、大曲中学校が今年、来年の工事着工となるが、整備内容に係るヒアリングは昨年実施しているので、本計画の内容を反映させるのは難しい。
・直近では大曲東小学校の大規模改造を予定しており、早ければその時点で本計画の内容が反映されていくものと考えている。

（Ｅ委員）
・本計画が学校施設整備のガイドラインとなるのであれば、複数校が一定の時期に同時で整備されるイメージを持っていた。これまでの流れを引き継いで１校ずつ行っていくということか。

（事務局）
・その通りである。これまでは建物の築年数を指標に一定程度機械的に整備を進めてきたが、今後は、今回の老朽化調査を踏まえ、予算の平準化を図りながら整備を進めていくことになる。
・計画の趣旨の一つが予算の平準化であり、また本市の学校の標準的な整備水準の検討が課題となっている。なお、本計画は、社会情勢に応じて見直していく必要があると考えている。

（Ｃ委員）
・学校のなかには既に工事に着手しているものもあるとのことだが、今後整備していく学校については、段階的に標準化が進められていくという考え方でよろしいか。

（事務局）
・そのとおりである。

（Ｃ委員）
・ヒアリング調査結果の概要資料を見ると、余裕教室の話題があまり出てきていないが、子どもが減っているのであれば、教室が余るという状況はまだ発生していないのか。

（Ｋ委員）
・余裕教室の状況は、市内の各学校で違うと思うが、本校では殆ど余裕教室がなく、依然として手狭である。そのようなスペースが欲しいという願望はある。

（Ｃ委員）
・今後の地域事情や人口動態によって児童生徒数が変動していくとすると、教室が余っているときや足りないときの活用などの考え方も、本計画のなかで検討すべき重要なテーマだと考える。

（Ｋ委員）
・今回、大規模改造の計画段階から関わってきたが、学校としてより有効にスペースを使うための要望を出した経緯がある。ただ、大規模改造は躯体を既存のまま残すことを前提として行う改修なので、間取り変更などは難しい部分があった。

（Ｃ委員）
・間取りの変更については、構造体としての制限もあるので、簡単にはいかないと思う。

（事務局）
・学校施設の有効活用という視点でいくと、北広島市内の学校で複合化しているのは、学童クラブが入っている大曲小学校のみである。

６　閉　　会

〇事務局から、後日、会議録の掲載と第２回会議の日程調整を行う旨を説明し閉会。